

國學院大學 学術情報リポジトリ

スタッフ紹介

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/1772

スタッフ紹介

いのうえのぶたか

井上 順孝 所長・兼任教授 担当プロジェクト：「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

宗教学、宗教社会学が専攻。東京大学文学部で宗教学宗教史学を専攻し、同大学の大学院では修士課程で平田篤胤の思想を研究し、博士課程では宗教心理学的方法を主としていた。博士課程を中退し文学部助手となったが、この頃からフィールドワークを手がけることになり、新宗教研究に関心を深めた。その後國學院大學日本文化研究所の講師となり、教派神道研究を深めることとなった。助教授、教授を経て、2002年に國學院大學に新設された神道文化学部に移った。日本文化研究所は兼任教授となったが、研究所の総合プロジェクトには継続的に関わっている。2002年に國學院大學が21世紀COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」が採択されたので、その第三グループのグループリーダーとなった。2006年に日本文化研究所所長を兼任、2007年にはさらに研究開発推進機構副機構長を兼任となった。

研究テーマは、平田篤胤、教派神道、移民の宗教、新宗教・現代宗教、宗教教育などいくつかの分野にまたがっているが、現在は現代宗教と宗教文化教育を中心に調査・研究を進めている。これまで奄美地方、浜松市、ハワイ、カリフォルニアなどで地域調査を行なったが、『新宗教事典』（弘文堂、1990年）の編集に当たっては、首都圏その他で数多くの教団調査を実施した。また、1992年以降は学生の宗教意識調査を継続的に実施しており、2007年までに10回を数える。いずれも回答者は数千人規模で30人以上の協力者を得てなされた。1999年からは韓国との比較も4回行った。これまでの著書はこうした研究テーマを反映している。最初の著書の『海を渡った日本宗教』（弘文堂、1985）は、ハワイとカリフォルニアで3度実施した共同調査の結果を踏まえている。『教派神道の形成』（弘文堂、1991）は、博士論文として提出したもので、國學院大學に来てから進めてきた教派神道研究の成果である。『新宗教の解説』（筑摩書房、1992）は、上記『新宗教事典』の編集を中心的行ったことによって得られた知見がもとになっている。1995年にオウム真理教による地下鉄サリン事件が起こったので、これについての記述を加えた増補版を1996年に同名の文庫として刊行した。

新宗教論から現代宗教論に視点を広げる必要性を感じて書いたのが『若者と現代』（筑摩書房、1999）である。情報時代の到来ということを重視した記述となっている。これらの本をもとにしながら、外国人に日本の宗教状況を介绍するため執筆したのが *Contemporary Japanese Religion* (Foreign Press Center/Japan, 2000) である。学生に対する宗教社会学のテキストとして刊行したのが『宗教社会学のすすめ』（丸善、2002）で、同様に神道についての入門書として刊行したのが『神道入門』（平凡社、2006）である。昨今では学生を対象にしたものでも、新書よりさらに噛み砕いたものが求められるようになっている。そこで執筆したのが『図解雑学 宗教』（ナツメ社、2001）、『図解雑学 神道』（ナツメ社、2006）である。『ポケット図解 宗教社会学がよ〜くわかる本』（秀和システム、2007）も同様の趣旨である。

単行本の刊行とともに、事典の編集に多く関わる機会をもった。『新宗教事典』の他、『神道事典』（共編、弘文堂、1994）、『新宗教教団・人物事典』（共編、弘文堂、1996）、『現代宗教事典』（編著、弘文堂、2005）の編集に関わってきた。『神道事典』は日本文化研究所の総合プロジェクトとして実施したもので、21世紀COEプログラムでは、この本文をすべて英訳してウェブ上で公開した。『現代宗教事典』は、現代宗教という研究分野を想定し、そこで対象となるであろう項目を選定した。ちなみに、現在『世界現代宗教事典（仮題）』を4人で翻訳中で、本年中の刊行を目指しているが、この内容は『現代宗教事典』の国際版的なものであると感じている。また、『続神道論文総目録』（國學院大學日本文化研究所編、弘文堂、1989）、『神道人物研究文献目録』（國學院大學日本文化研究所編、弘文堂、2000）という文献目録の作成にも責任者として関わってきた。事典ではないが、ミニ事典的な機能をもたせるために編集したのが、『世界の宗教101物語』（新書館、1997）と『近代日本の宗教家101』（新書館、2007）である。とくに前者は日本と世界の主な宗教を網羅してあるので、宗教学を少し専門的に学ぼうとする学生にとっては入門書になるのではないかと考えている。

1998年から財団法人国際宗教研究所の宗教情報リサーチセンターのセンター長として、宗教情報の収集と公開という作業にも関わっている。ささやかな社会貢献のつもりでいるのだが、なかなか課題は多い。

【研究紹介】

近世・近代の国学・神道史を専攻している。大学院修士時代には国学者の思想的側面に興味を持ち、賀茂真淵の世界観理解に関する研究で修士論文をまとめた。博士課程に入ってから、時代を遡及して荷田春満の研究に着手した。当初の目論見では2、3年でまとめられるだろうと考えていたが、甘い見通しであった。その時、思想が展開する社会的な文脈を理解しなければならぬということに気が付き、近世の神社や社家に関する研究も並行して進めるようになった。結局、この営みが現在まで続いているのである。書かれた思想とその具体的な場所・実践との架橋が課題であり、本プロジェクトもその課題を解明する試みである。以下、現在の具体的研究テーマを挙げる。

- (1) 荷田春満の思想と実践
- (2) 鈴門を中心とした靈魂観の言説と実践
- (3) 近世神道史の通史的理解
- (4) 国学研究史
- (5) 近代神道学史

【2007年度の研究業績】

[史料翻刻]

- ・「相馬地方における平田篤胤書簡Ⅴ」『國學院大學日本文化研究所紀要』 100輯 平成20年3月

【2007年度以前の主な研究業績】

[単著]

- ・『荷田春満の国学と神道史』 弘文堂 平成17年

[共編]

- ・『新編 荷田春満全集』第3巻 おうふう 平成17年
- ・『新編 荷田春満全集』第2巻 おうふう 平成16年

[論文]

- ・「近世偽文書と神職の意識と行動—元和・天和の「神社条目」について—」『日本文化と神道』第2号 平成18年2月

【研究紹介】

専門は神話学。とくに近現代の日本において、神話がどう読まれてきたか、どう扱われているのか、人々は神話を使って何を表現してきたのかという問題に関心をもち、研究を行っている。最近では神話と宗教文化教育の問題についても興味をもっている。具体的には、次のようなテーマに取り組んでいる。

- (1) 明治期の神話学について。
 - ① B・H・チェンバレンや W・G・アストンら明治期の外国人による日本神話の読み方とその影響。
 - ② 日本で神話学が受容され、研究が開始されていく背景。
- (2) 日本神話の比較研究の歴史。現在はとくに昭和前期の植民地主義との関わりを研究している。
- (3) 現代社会における神話の利用方法とその特徴。とくにポップカルチャーにおける神話の利用に関心がある。
- (4) 宗教文化教育における神話教育の可能性と課題。

本プロジェクトでは、Encyclopedia of Shintoの編集作業と国際研究フォーラムの運営を分担している。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・「グローバル化社会とハイパー神話—コンピュータ RPG による神話の解体と再生—」（松村一男・山中弘編『神話と現代』リトン、2007年12月）

【分担執筆】

- ・井上順孝編『近代日本の宗教家101』（新書館、2007年4月）・・・「岡信一良」、「酒井勝軍」、「松村介石」を担当
- ・島蘭進・石井研士・下田正弘・深澤英隆編『宗教学文献事典』（弘文堂、2007年12月）・・・「デュメジル・コレクション」、「三品彰英論文集」を担当

【講演・シンポジウム・研究会】

- ・「植民地帝国日本の神話学—昭和前期の日本神話研究を中心に—」科学研究費補助金プロジェクト「フェシズム期の宗教と宗教研究にかんする国際的比較研究」研究会、京都市国際交流会館、2007年7月20日
- ・「昭和前期の日本神話研究」シンポジウム «Shinto Studies and Nationalism»、オーストリア国立科学アカデミー、2007年9月13日
- ・「植民地帝国日本の神話学」近代問題研究会、國學院大學、2007年12月1日
- ・「神道を外国人にどう伝えるか」日本文化を知る講座、國學院大學、2007年10月20日
- ・「宗教教育を宗教界はどうサポートできるのか」（コメント）財団法人 国際宗教研究所 主催 公開シンポジウム「宗教教育を宗教界はどうサポートできるのか」2007年12月8日
- ・「人文科学と画像資料研究—画像資料の公開と知的財産権—」（コメント）國學院大學、画像資料研究フォーラムXI、2008年3月8日

【2007年度以前の主な研究業績】

【単著】

- ・『神話学と日本の神々』弘文堂、2004年

【論文】

- ・「現代日本における神話—現代宗教論との関わりから—」『日本文化と神道』第3号（國學院大學 21世紀 COE プログラム研究センター、2006年）
- ・“Study of Japanese Mythology and Nationalism”『日本文化と神道』第3号（國學院大學 21世紀 COE プログラム研究センター、2006年）
- ・「レオン・ド・ロニと日本神話」『学習院大学国語国文学会誌』第49号（学習院大学国語国文学会、2006年）
- ・「古事記・日本書紀の神話学的研究の現在—最近の傾向と課題」『國文學』第51巻1号、學燈社、2006年

【研究紹介】

専門は日本宗教史。近世・近代を研究対象としている。これまでの中心的な対象は神道・国学で、特に平田国学について集中的な研究を行ってきた。思想史と社会史の両方に関心を持ち、両者を架橋するアプローチで宗教思想についての考察を行っている。また、近代の人文学について神道研究を主対象として、大学における学問的営為と神社行政における学問の役割との関係について分析している。

(1) 平田篤胤および気吹舎の思想・活動に関する思想史・社会史両面からの研究

(2) 國學院大學図書館蔵宮地直一コレクションを中心とした、近代神道研究の社会史的・文化的的研究

本プロジェクトでは、全体の計画、および平田篤胤の思想分析、気吹舎の地域門人の宗教社会史的研究を担当している。

【2007年度の研究業績】

[単著]

・『平田国学と近世社会』（ペリかん社、2008年2月）

[資料翻刻]

・「相馬地方における平田鋳胤書簡（V）」『國學院大學日本文化研究所紀要』第100輯

[講演・シンポジウム・研究会]

・“Shinto Studies and Shrine Policy in the First Half of the 20th Century: The Case of Miyaji Naokazu”, in Symposium: Shinto Studies and Nationalism, Austrian Academy of Sciences Institute for the Cultural and Intellectual History of Asia, 2007年9月

・第1回「國學院の学術資産に見るモノと心」研究フォーラム（コメント）、國學院大學伝統文化リサーチセンター、2007年12月

[評論・書評など]

・「馬琴と篤胤」『近世の好古家たち』雄山閣、2008年2月

・（共著）“Religion”, in *An Introductory Bibliography for Japanese Studies vol. XV (2003-2004) Part 2*, The Japan Foundation, 2007年

【2007年度以前の主な研究業績】

[共著]

・島蘭進・磯前順一編『東京帝国大学神道研究室旧蔵書 目録と解説』東京堂出版、1996年6月

・井上順孝編『ワードマップ 神道』新曜社、1998年12月

・國學院大學日本文化研究所編『神道人物研究文献目録』弘文堂、2000年3月

・樋口雄彦（研究代表）『平成15年度～平成18年度科学研究費補助金〔基盤研究(B)〕研究成果報告書「平田国学の再検討—篤胤・鋳胤・延胤・盛胤文書の再検討—」(1)(2)』2007年3月

[論文]

・「[神道]から見た近世と近代」『岩波講座宗教3 宗教史の可能性』岩波書店、2004年2月

【研究紹介】

専門は宗教学で、最近には主に近代の日本において「宗教」というものがどのようなものとして捉えられ、また語られてきたのかということについて、実際に何らかの宗教伝統に関わっていた人々に即して考察している。

既に近代日本における宗教言説の展開については一定の研究蓄積があるが、問題関心は特定の宗教伝統を奉じる者達とその宗教伝統をどのように捉え、提示してきたのかという点にあり、そうした観点から一部の仏教徒達やキリスト教徒達に焦点をあて、それらの人々が同時代的な宗教言説を何らか参照しながら自らの宗教理解を組み立て直していく営みについて研究を行ってきた。

更に、これをそれらの人々が単に同時代における宗教言説を受容して読み替えていく営みとしてのみ捉えるのではなく、そこでそれらの人々が様々な自らの宗教伝統について語ることが、また再帰的に近代日本の宗教言説の形成に関わっていくという往還的な過程として論じることを試みている。

また、これに関連して近代日本の宗教の歴史を叙述する際の方法論についても関心を持っている。

本プロジェクトでは、Encyclopedia of Shinto の編集補助と、デジタル・ミュージアムに移行が予定されている諸データベースの実務担当者との連絡調整等を担当している。

【2007年度の研究業績】

【分担執筆】

- ・島蘭進、石井研士、下田正弘、深澤英隆編『宗教学文献事典』（弘文堂、2007年12月）・・・『思想史再考』、『宗教進化論』、『宗教の改造』、『真理一斑』、『田中正造の生涯』、『明治思想家の宗教観』、『明治文化史』、『メイド・イン・ジャパンのキリスト教』を担当。

【その他】

- ・島蘭進監修、島蘭進・高橋原・星野靖二編集『宗教学の諸分野の形成』（日本の宗教学）第五期、全九冊、クレス出版、2007年11月）・・・編集、解説を担当（共著「解説」第九巻、pp.1-34）
- ・「書評——山崎渾子『岩倉使節団における宗教問題』」（『日本歴史』717、2008年2月）

【口頭発表】

- ・「キリスト教史と宗教史の"あいだ" — 近代日本〈宗教〉史の試み」（宗教学研究所第45回例会、2007年6月23日）
- ・「近代日本の「知識人宗教」 — 宗教の知による再構成をめぐる —」（「知識人宗教」の問題圏）パネルにおける発表（日本宗教学会第66会学術大会、2007年9月16日）
- ・「近代日本における〈信仰〉の位相」（共同研究会「東アジアにおける知的システムの近代的再編成」（国際日本文化研究センター）における研究報告、2007年11月17日）

【2007年度以前の主な研究業績】

【論文】

- ・「『宗教』の位置づけをめぐる — 明治前期におけるキリスト教徒達にみる」（島蘭進・鶴岡賀雄編『宗教再考』ペリかん社、2004年1月）pp.228-253
- ・「明治十年代におけるある仏基論争の位相 — 高橋五郎と蘆津実全を中心に」（『宗教学論集』26輯、駒沢宗教学研究会、2007年3月）pp.37-65

【その他】

- ・島蘭進監修、島蘭進・高橋原・星野靖二編集『宗教学の形成過程』（日本の宗教学）第四期、全9冊、クレス出版、2006年10月）・・・編集、解説を担当（共著「解説」第9巻、pp.1-46）

【研究紹介】

専攻は宗教学、宗教社会学。現代社会と宗教を研究対象とし、戦後の宗教の変容を社会構造の変動との関わりから理解することを目的としている。

- (1) 都市化と宗教に関する研究
- (2) 情報化と宗教に関する研究
- (3) 日本人の宗教意識・宗教行動の変化・持続に関する研究
- (4) 宗教団体の公共性に関する研究

【2007年度の研究紹介】

[単行本]

- ・『増補改訂版 データブック現代日本人の宗教』新曜社、2007年4月
- ・『山口県・後継者問題実態調査報告書』2007年7月
- ・島藺進・石井研士・下田正弘・深澤英隆編『宗教学文献事典』弘文堂、2007年12月

[論文]

- ・「氏神信仰の10年 「神社に関する意識調査」から」(『第3回『神社に関する意識調査』報告書』神社本庁教学研究所、2007年10月)
- ・「テレビの放送にかかる法的規制に関する考察」(『宗教法』第26号、2007年11月)
- ・「現代日本人の魂のゆくえ」(『明治聖徳記念学会紀要』復刊第44号、2007年11月)
- ・「霊のいるトコロ」(一柳廣孝・吉田司雄編『霊はどこにいるのか』青弓社2007年12月)
- ・「宗教に関するメディア・ステレオタイプ論」(『國學院大學日本文化研究所紀要』第100輯、2008年3月)
- ・「宗教団体の公益活動・公益性に関する一考察」(『國學院大學大学院紀要』第39輯、2008年3月)
- ・「現代社会における神道教学の諸問題」(『神社本庁教学研究所紀要』第13号、2008年3月)

【2007年度以前の主な研究業績】

[単行本]

- ・『銀座の神々ー都市に溶け込む宗教』新曜社、1994年
- ・『都市の年中行事ー変容する日本人の心性』春秋社、1994年
- ・『データブック現代日本人の宗教 戦後50年の宗教意識と宗教行動』新曜社、1997年
- ・『社会変動と神社神道』大明堂、1998年
- ・『日本人の一年と一生』春秋社、2005年
- ・『結婚式ー幸せを創る儀式』日本放送出版協会、2005年

[訳書]

- ・カール・ドベラーレ『宗教のダイナミクスー世俗化の宗教社会学』ヤン・スィングドー共訳、ヨルダン社 1992年
- ・ニニアン・スマート『世界の諸宗教Ⅱ』教文館 2000年

【研究紹介】

インターネットをはじめとする情報化と宗教とのかかわりについて研究している。これまでは神社神道のインターネット利用を中心として調査を行ってきたが、今後は雑多な情報が混淆するコミュニケーション空間における宗教的な志向性を探究していきたいと考えており、その手がかりを探っている。そのほか、宗教の社会貢献活動に関する共同研究の一環として、神社神道と地域社会との新たな連携について調査研究を進めている。

総合プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」では、日本文化研究所で携わらせていただいたインターネットによる学術情報発信の経験をふまえて、デジタル・ミュージアムの構築と教育面での活用について協力していく。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・「インターネットにおける祈りの理解に向けて：祈りをめぐる二つの志向性」川端亮（研究代表者）『社会意識研究法としての言説データベースの構築とその利用：宗教言説を事例として』（研究課題番号 17330115）平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書、2008 年 3 月、69-82。

【報告書】

- ・『写真資料デジタル化の手引き 保存と研究活用のために』國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所、2008 年 3 月。（共著）
- ・「画像資料研究フォーラム X 「人文科学と画像資料研究」—デジタル情報を生かした教材作成に向けて—」『國學院大學研究開発推進機構 プロジェクト研究報告 人文科学と画像資料研究』5、2008 年 3 月、45-47。
- ・「学術資産のデジタルデータ化—記録保存と活用の狭間で—」『國學院大學研究開発推進機構 プロジェクト研究報告 人文科学と画像資料研究』5、2008 年 3 月、107-109。

【学会発表】

- ・「インターネット上の宗教情報に対する研究視角」日本宗教学会第 66 回学術大会、2007 年 9 月。

【研究会発表】

- ・「地域づくりにおける参加機会創出と神社・祭礼—熊本県人吉市の事例から—」「宗教と社会」学会「宗教の社会貢献活動研究」プロジェクト第 7 回研究会、2008 年 3 月。

【項目記事】

- ・「[セカンドライフ]の中の仮想宗教の動き」渡邊直樹責任編集『宗教と現代がわかる本 2008』平凡社、2008 年、200-203。

【研究会司会】

- ・「画像資料研究フォーラム XI 「人文科学と画像資料研究」—画像資料の公開と知的財産権」國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所、2008 年 3 月。

【2007年度以前の主な研究業績】

【論文】

- ・「インターネット文化のハイブリッド性と神社神道」『日本文化と神道』3、2006 年 12 月、59-79。

【項目記事】

- ・「インターネットの中の宗教：Web 2.0 と宗教のゆくえ」渡邊直樹責任編集『宗教と現代がわかる本 2007』平凡社、2007 年、164-167。

【研究紹介】

専門： 宗教学、特に日本近世の民間信仰（「お陰参り」などの伊勢信仰が中心）。数年前から日本の自然観、環境問題と宗教などにも関心をもち、2006年度から國學院大學の「現代GP」プログラム、「環境教育研究プロジェクト」にも参加している。「デジタルミュージアム」の前身である21世紀COEプログラムでは『神道事典』（EOS: Encyclopedia of Shinto）の英訳・編集・オンライン化運営を分担している。

【2007年度以前の主な研究業績】

- *Encyclopedia of Shinto: vol 1: Kami* (翻訳・編集). Kokugakuin University, Institute for Japanese Culture and Classics, 2001.
- *Encyclopedia of Shinto: vol 2: Jinja* (翻訳・編集). Kokugakuin University, Institute for Japanese Culture and Classics, 2004.
- *Encyclopedia of Shinto: vol 3: Groups, Organizations, and Personalities* (翻訳・編集). Kokugakuin University, Institute for Japanese Culture and Classics, 2006.
- “Shinto” in Paul L. Swanson and Clark Chilson, eds., *Nanzan Guide to Japanese Religions* (Honolulu: University of Hawai’ I Press, 2006).
- Shinto in the Western Mind (「西洋人の心による神道」)、『日本文化と神道』第1号（國學院大學21世紀COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」成果論文集）、國學院大學21世紀COEプログラム研究センター2006年2月

【講演・シンポジウム・研究会】

- 「環境問題と宗教の関わりについて」國學院大學環境教育研究プロジェクト、中国南開大学での合同講演会・セミナー、2008年3月18日

【研究紹介】

専門は神道神学。とりわけ近世国学者の神理解を、神道神学の視点から分析している。これまで具体的には次のようなテーマに取り組んだ。

- (1) プロテスタントの組織神学者R・オットーのヌミノーズ概念と本居宣長の「神の定義」との比較研究。
- (2) 戦後神道神学及び神道理論を専攻した研究者の方法論の比較研究。
- (3) 本居宣長の著述稿本に基づく神学の成長過程に関する研究。
- (4) 橘守部の神学と「顕生魂」概念の確立過程に関する研究。等。

現在は、近世から近代に至る国学者の『日本書紀』とりわけ「宝鏡開始章」をめぐる注釈の比較研究に取り組んでいる。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・「多神信仰の論理—国学者の視点—」國學院大學研究開発推進センター『研究紀要』第1号、2007年3月

【2007年度以前の主な研究業績】

【論文】

- ・「荒魂考」・『國學院雑誌』第104巻第11号、2003年11月。
- ・「鈴木重胤と神祇祭祀—神学確立過程に関する一考察—」『明治聖徳記念学会紀要』復刊第40号、2004年12月。
- ・「豊受大神敬祭説をめぐる」・『神道宗教』第199・200合併号、2005年10月。等。

市川 収 客員研究員 担当プロジェクト：「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

【研究紹介】

専門は惑星物質科学。ある種の隕石は太陽系形成初期の情報を有していると考えられ、それを研究する事により太陽系形成初期の環境や、その隕石の母天体の環境および形成過程が明らかになる事が期待される。

その他として、マルチメディア機器を用いた効果的な授業の展開に関する研究に携わった。

本プロジェクトでは Encyclopedia of Shinto の Web ページの制作を分担している。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・「学習院大学におけるマルチメディア機器利用の実態」(市川収・大谷健一・松岡東香『大学教育と情報』2008年1月)

【2007年度以前の主な研究業績】

- ・マルチメディア機器が文房具として使いこなされる日を目指して(『大学教育と情報』Vol.10 No.2, 29-32, 2001)
- ・Antarctic Micrometeorites collected at the Dome FUJI station. (*Antarctic Meteorite Research* No.12, 1999)
- ・DEGREE OF AQUEOUS ALTERATION OF CHONDRULES IN Y-790112 CR CHONDRITE. (*Meteoritics & Planetary Science* Vol. 31, 1996)
- ・PETROLOGY OF THE YAMATO-8449 CR CHONDRITE (*Proceedings of the NIPR Symposium on Antarctic Meteorites* No. 8, 1995)

市田雅崇 PD研究員 担当プロジェクト：「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

【研究紹介】

専門は民俗宗教研究。神社祭祀を中心に民俗宗教の視点から考察。近代化における変容、現代における観光や地域復興による変容などを視野に入れ、儀礼とそれをとりまく言説を通して、地域社会の共同性・歴史意識が構築される過程と意味を研究している。おもな調査地は気多大社(石川県)、大物忌神社(山形県)など。

本プロジェクトでは Encyclopedia of Shinto のデジタルコンテンツ編集作業を担当。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・「民俗宗教空間の歴史性」(『哲学』第119集[鈴木正崇編、特集文化人類学の現代的課題Ⅱ]、2008年3月)

【講演・シンポジウム・研究会】

- ・「明治期の由来書上にみる民俗宗教的世界」日本宗教学会第66回学術大会、立正大学、2007年9月

【2007年度以前の主な研究業績】

- ・「〈歴史の共有〉と宗教儀礼—気多神社平国祭の事例から—」(『日本民俗学』第228号、2001年11月)
- ・「民俗社会における歴史の生成—儀礼に関する『ありふれた』語りから歴史を問う」(『生活学論叢』第10号、2005年10月)
- ・「儀礼のなかの大きな物語と小さな物語—鶺鴒祭と鶺鴒を迎える人たち—」(『國學院大學日本文化研究所紀要』第99号、2007年3月)

【研究紹介】

専門は宗教学・宗教史。近現代における日本とアジア諸宗教との関係史について研究を行っている。平成20年度からは、科学研究費補助金・若手研究（B）「昭和前期における日本仏教と東南アジアの関係史についての基礎的研究」の研究代表者として、上記の課題について実態の解明を進めている。本プロジェクトでは、Encyclopedia of Shintoの動画ならびに音声コンテンツの作成、教派神道史料のデジタル化に従事している。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・「巴利文化学院の対外活動―戦時期における宗教宣撫工作の一事例として―」（『近代仏教』第14号、日本近代仏教史研究会、2007年11月）
- ・「日本軍政下のマラヤにおける宗教調査―渡辺楳雄について―」（『アジア文化研究所研究年報』第42号、東洋大学アジア文化研究所、2008年2月）
- ・「戦後初期の渡辺楳雄―宗務行政と宗教界との関わりから―」（『國學院大學日本文化研究所紀要』第100輯、國學院大學日本文化研究所、2008年3月）
- ・「昭和前期における真言宗喇嘛教研究所の学術活動について」（『大正大学大学院研究論集』第32号、大正大学、2008年3月）
- ・「戦時期ビルマにおける宣撫活動と日本人仏教者―上田天瑞を中心に―」（『宗教学論集』第27輯、駒沢宗教学研究会、2008年3月）

【2007年度以前の主な研究業績】

- ・『昭和前期におけるアジア諸宗教の調査研究活動に関する分析的研究』（博士論文、大正大学甲第40号、2007年3月）

【研究紹介】

専門は神道の祭祀、とりわけ祭式についてである。近世から近代にかけて、神社でおこなう種々の儀礼が、いかなる思想・信仰・社会のもとで成立し、展開していったのかについて、具体的には、次のような課題を検討している。

- (1) 幕末維新时期における国学者の神道観と神社における祭祀・儀礼との関わりについて
- (2) 明治8年制定の「神社祭式」の成立過程について
- (3) 近代以降の私祈祷の成立と展開について

本プロジェクトでは、主に国学者六人部是香の靈魂観について、葬祭儀礼に関する史料からの分析をすすめている。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・「明治期における敬神思想と祝詞作文に関する小考」（『國學院大學研究開発推進センター研究紀要』第2号、平成20年3月）

【2007年度以前の主な研究業績】

【論文】

- ・「近代における祈願祭祀の成立に関する一考察―六人部是香著『私祭要集』を中心に―」（『國學院大學研究開発推進センター研究紀要』第1号、平成19年3月）
- ・「明治八年式部寮達「神社祭式」の制定過程に関する一考察」（『日本文化と神道』第3号、平成18年12月）
- ・「幕末維新时期における祭政一致観―会沢正志齋と国学者をめぐる―」 阪本是丸編『国家神道再考―祭政一致国家の形成と展開―』（弘文堂、平成18年10月）

【研究紹介】

専門は宗教社会学。日韓の新宗教の比較研究をしている。とくに日本の新宗教の「妙智會教団」と韓国の新宗教である「圓仏教」の現在の活動を、情報化、グローバル化の影響を見ながら比較研究している。21世紀COEプログラムの事業で行われた Encyclopedia of Shinto の9つの Chapter introductions を韓国語に翻訳した。また「神道大教にみられる「神道」の教団化過程」（井上順孝）の韓国語翻訳をおこなった。これらはウェブ上に公開されている。本プロジェクトでは、Encyclopedia of Shinto の韓国語の翻訳を担当している。

【2007年度の研究業績】

[論文]

- ・「情報化時代における妙智會会員の意識 一会員へのアンケート調査の分析を中心に―(1)、(2)」
『国際宗教研究所ニュースレター』第56号、第57号、2007年11月、2008年1月
- ・「グローバル化時代の到来と新宗教の展開 一妙智會教団の事例一」 駒沢大学宗教研究会『宗教学論集』第27輯 2008年2月

[分担執筆]

- ・「小谷喜美」「長沼妙俊」「宮本ミツ」 井上順孝編『近代日本の宗教家101』新書館 2007年4月

[講演・シンポジウム・研究会]

- ・「妙智會教団会員の世代間意識調査」 日・韓次世代学術 FORUM 第4回国際学術大会 2007年6月23日発表

【2007年度以前の主な研究業績】

- ・「妙智會教団の研究史の分析 一宗教社会学的視点を中心に―」『國學院大學大学院紀要』文学研究科第37輯 2006年3月

【研究紹介】

専門としては日本の伝統芸能を研究しています。とくに歌舞伎における「芝居」と「儀式」・「信仰」との関わりに関心を持っております。現在の主な研究分野は以下の通りです。

1. 歌舞伎の三番叟ものにおける「儀式」と「パロディ」
2. 芝居年中行事
3. 能楽論と宗教
4. 日本舞踊の様式

本プロジェクトにおいては、Encyclopedia of Shinto の翻訳、校正を担当しております。

[研究業績]

- ・ *Kabuki*, Palimpsest 出版社、ブカレスト、ルーマニア、2003.

【研究紹介】

近世後期から明治初期における神職であり国学者でもある人物を中心に研究している。特に興味を持っているのは、当該時代の神職国学者がどのような学問を受容し、どのような影響を受け、そして門人等がどのような影響を与えたのかということである。このような視点から本プロジェクトで研究会を行っている『靈能真柱』に重点を置いて研究を行っていきたい。

- (1) 具体的には、着目する神職国学者が『靈能真柱』をどのように受容したか
- (2) その影響を受けてその人物がどのような思想を形成したか（著作等）
- (3) その思想の結実としてどのような行動をとったのか（神葬祭等）

を研究する。

本プロジェクトでは、鳥取藩の神職国学者飯田年平の調査研究、高玉安兄宛平田鏡胤書簡の翻刻、本居文庫蔵『靈能真柱』の注釈作業を分担している。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・「神道の生命倫理」(財団法人神道文化会設立六十周年記念懸賞論文「神道と生命倫理」特選受賞、2007年10月)
- ・「岡熊臣の思想—『読淫祀論』を中心に—」(『神道研究集録』第22輯、2008年3月)

【研究会】

- ・「幕末津和野藩の社寺政策」(第156回駒沢宗教学研究会・関東地区修士論文発表会、2008年3月)

【研究紹介】

日本近世史の立場から、幕末国学を研究している。とりわけ、国学的世界像と当該期の政治運動との関係について問い直すことを課題としている。これまで、南信・東濃地域における平田国学の受容過程や、幽界情報に対する気吹舎の態度変化を跡づけることで、篤胤没後門人の性格変容を検討してきた。現在は新政府成立後も視野に入れて、コスモロジーと政治状況とを関連づけた分析を目指している。関連して、広く政治状況と歴史叙述との結びつきに興味がある。

本プロジェクトでは、『靈能真柱』のネット公開に向けた校註、また高玉家文書の翻刻に関係する作業に従事し、それらを支える研究会の運営を補佐している。

【2007年度の研究業績】

【講演・シンポジウム・研究会】

- ・「『幽界物語』と気吹舎の変容」第32回「書物・出版と社会変容」研究会、一橋大学佐野書院、2007年6月9日。
- ・「明治維新と『幽界』—明治初年の平田国学をめぐる—」2007年度史学会大会日本史部会(近世・近現代)、東京大学、2007年11月18日。
- ・「紀州藩における国学者の存在形態—参沢明を例に—」千葉県史編纂近世史部会研究例会、2007年12月15日。

【資料翻刻】

- ・(共著)「相馬地方における平田鏡胤書簡(V)」(代表松本久史「近世国学の靈魂觀をめぐる思想と行動の研究プロジェクト」プロジェクト報告、『國學院大學日本文化研究所紀要』第100輯、2008年3月)

【2007年度以前の主な研究業績】

- ・「伊那における平田国学の伝達作用の諸相」(飯田市歴史研究所研究活動助成成果概要、『飯田市歴史研究所年報』第3号、2005年8月)
- ・(共著)『下伊那郡清内路村下区有文書調査報告書』第3号(東京大学日本史学研究室、2006年3月)

【研究紹介】

専門は宗教学。消費化や近代化、国際化、情報化など、特徴のある世俗化された日本社会における宗教的要素と、自らを頑なに「無宗教」と強調する日本人がいつ宗教的行為に移すかという事などに興味を持っている。とりわけ、現代日本社会における聖職者と宗教的儀式・儀礼の機能に関心を持っている。たとえば、どのように聖職者は創造・維持されるか、社会における少数派の聖職者はどう宗教的行為を定義するか、この聖職者は宗教的行為によってどのように社会に定義されているか、聖職者同士また社会における儀式・儀礼はどういう機能を果たしているか、現代社会に存在する少数派の聖職者はどういう役を果たしているかというような事柄などを研究している。

本プロジェクトでは Encyclopedia of Shinto などの和英翻訳・英文編集を担当している。

【2007年度の研究業績】

[講演・シンポジウム・研究会]

- ・「現世利益と悟りの追求：求聞持法の解釈」アメリカ・カナダ日本研究センターの総合発表学会、クイーンズスクエア横浜クイーンモール3階みなとみらいギャラリープレゼンテーション・ホール、2007年6月6日。
- ・「宗教とは何か—現代日本社会における宗教」フェリス大学院大学国際交流学部特別講演者、フェリス大学、2007年11月。

[和英翻訳]

- ・岡田荘司「天皇と神々の循環型祭祀体系—古代の崇神」(『神道宗教』199・200合併号73-88頁2005年)、<http://21coe.kokugakuin.ac.jp/articlesintranslation/>

【研究紹介】

専門は日本宗教史、とくに修験道(その歴史、行事)、それと関連して、つぎのようなテーマに関心を寄せている。(1) 修験道と神仏分離。(2) 羽黒修験道の儀礼の歴史(手文を使って)(3) 女人禁制、とくに現代の山上ガ岳開放問題。(4) 修験道の寺社の歴史学、地理学研究(とくに絵図、寺社案内書などを使って)(5) 現代の修験道復。

【2006-2007年度の研究業績】

[論文]

“Star Rituals and Nikko Shugendo” *CULTURE AND COSMOS* 10-1, 2006, pp. 217-50; “Sacralizing the Border: The Engendering of Liminal Space” *TASJ* 20, 2006, pp. 53-69; “Varied Reactions to the Shinto-Buddhist Separation Edicts as Seen in Shugendo Shrine-Temple Complexes 1868-1875” 『山岳修験』2007.11, pp. 25-55.

[講演・シンポジウム・研究会]

“Tradition, Reason and Emotion : Female Exclusion and Preserving the Past in the Omine Mountains” (オーストラリア日本学の学会、キャンベラ2007年7月)、羽黒修験道と神仏分離(いでは文化記念館、手向、2007年7月) “Legends of the Fall, the Iconoclasm of Sacred Space” (AAR学会、サンジエゴ、2007年11月)、“Defining Shugendo Past and Present: The ‘Restoration’ of Shugendo at Nikko and Koshikidake” (Barnard Hall, Columbia University, ニューヨーク2008年4月)

【2007年度以前の主な研究業績】

“Paper Fowl and Wooden Fish, The Separation of Kami and Buddha Worship in Haguro Shugendo, 1869-75” (*Japanese Journal of Religious Studies* 32.2, 2005年, pp. 197-234), 宮家準著 *Mandala of the Mountain* (翻訳、編集、序文)、「秋の峰の歴史を歩む」(『千年の修験—羽黒山伏の世界』新宿書房2005, pp. 88-127).

【研究紹介】

専門は日本思想史。とくに儒学など外来思想が日本においてどう土着し、本来の神観念などと絡み合い、儀礼、政治観念、自国アイデンティティーに影響を与えたかという問題に関心を持ち、研究を行なっている。具体的には、次のようなテーマに取り組んでいる。

- (1) 中世・近世の記紀神話解釈
- (2) 異色の儒家神道として、また日本固有の儒学形態としての水戸学
- (3) 上智大学・靖国神社事件から見る 1930 年代の国家神道

本プロジェクトでは Encyclopedia of Shinto の編集作業と国際研究フォーラムの運営に参加している。

【2007 年度の研究業績】

【論文】

- ・ “‘The Age of the Gods’ in Medieval and Early Modern Historiography” (James C. Baxter, Joshua A. Fogel 編, *Writing Histories in Japan: Texts and Their Transformations from Ancient Times through the Meiji Era*, International Research Center for Japanese Studies, Kyoto, 2007).

【講演・シンポジウム・研究会】

- ・ “Coming to Terms with ‘Reverence at Shrines’: The 1932 Sophia University–Yasukuni Shrine Incident,” Symposium: Shinto Studies and Nationalism, Institute for the Cultural and Intellectual History of Asia, Austrian Academy of Sciences, Vienna, 14 September 2007.

【2007 年度以前の主な研究業績】

- ・ *Shogunal Politics: Arai Hakuseki and the Premises of Tokugawa Rule* (Council on East Asian Studies, Harvard University, 1988); 日本語訳：新井白石の政治戦略—儒学と史論（東京大学出版会、2001）。
- ・ “‘Esoteric’ and ‘Public’ in Late Mito Thought” (Bernhard Scheid, Mark Teeuwen 編, *The Culture of Secrecy in Japanese Religion*, Routledge, 2006)

【研究紹介】

専門は日本宗教史。とくに近世の陰陽道を中心に、さまざまな宗教者の相互関係を解明する研究を行っている。それ以外にも、つぎのようなテーマに関心を寄せている。

- (1) 近世の改暦について。改暦にかかわった土御門家、天文方、暦学者の相互関係の解明。
- (2) 宗教学、民俗学、仏教学、宗教社会学などの近代学問史の再検討。
- (3) 近世の芸能的宗教者の活動、とくに配札活動とそれをめぐる争論についての研究。
- (4) 近代仏教史の時代区分と枠組みについての研究。
- (5) 愛知県の民俗信仰の調査研究。

【2007 年度の研究業績】

【論文】

- ・ “The Tokugawa Shoguns and Onmyōdō” *CULTURE AND COSMOS* 10-1, pp.49-62
- ・ 「近世の土御門家と三河・尾張万歳」(大阪人権博物館編『万歳』、2007年9月)
- ・ 「貞享暦」(『歴史と地理』610号、2007年12月)

【講演・シンポジウム・研究会】

- ・ 「仏教民俗学の学史的意義」(日本民俗学会第59回年会プレシンポジウム、大谷大学、2007年6月10日)
- ・ 「陰陽道と神道」(明治聖徳記念学会、明治神宮、2007年7月21日)

【2007 年度以前の主な研究業績】

- ・ 『近世陰陽道の研究』(吉川弘文館、2005年)
- ・ 『天文方と陰陽道』(山川出版社、2006年)

【研究紹介】

専門は日本学。主に教派神道に関心を持ち、研究を行っている。修士論文のテーマをより深めるため、出雲大社教についてより詳細に研究する予定である。とくに出雲大社教の形成と千家尊福について調べている。そのために、現在は教派神道と出雲大社教に関する一次資料・二次資料の収集、調査にあっている。その資料を手がかりに千家尊福、どのような目的で集団を組織化していったのかを分析するつもりである。その際、思想の変化についても論じたいと思う。

主たる研究のプロセスは次の通りである。

- (1) 出雲大社教の歴史的な展開とその教祖千家尊福(1845-1918)に関する資料調査。
 - (2) ドイツではまったく入手できなかった歴史資料の収集作業にあたる。
 - (3) 出雲大社教の形成に伴って千家尊福の神道概念、すなわち出雲信仰の解釈も変化していったかどうかを分析。
 - (4) 出雲大社教における出雲信仰と出雲大社の関係。
 - (5) 出雲大社または出雲大社教の東京分祠と本社との関係。出雲大社教分祠の役割と発展。
- そのほか、日本神道研究の学術的方法論も勉強したいと思う。

【2007年度以前の主な研究業績】

- ・修士論文(2006年):「出雲における教派神道の形成—神道大社教を手がかりに」

【研究紹介】

近代日本における宗教と近代化の問題を、仏教に焦点をあてて研究。特に、従来の研究で等閑視されてきた「教団」を軸に、近代化と伝統の葛藤を伝統宗教集団の目線から明らかにする。

- (1) 従来の研究において「近代的仏教」として扱われてきた人物や運動体が、その当時、「教団」をどのように語っていたかを明らかにする。
- (2) 「教団」としての組織変革、体制整備のプロセスおよびメカニズムを、意思決定機関の変遷から分析する。
- (3) 各「教団」における宗祖を集団統合のシンボルとしてみなし、「教団」がそのシンボルに対してどのような言説を付与していたのかを明らかにする。
- (4) 学術的ウェブコンテンツ発信のためのアプリケーション開発。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・「近代社会と仏教—矢吹慶輝を中心として—」『近代仏教』第14号、2007年11月。

【研究ノート】

- ・「『近代仏教』とは何だったのか—近代仏教研究の視点から(二)—」『浄土学』第44号、2007年6月

【2007年度以前の主な研究業績】

- ・「沖縄における仏教寺院の信徒組織化に関する一考察—真言宗智山派A寺を事例として—」『基盤研究(C)(2) 沖縄における死者慣行の変容と「本土化」—那覇市周辺地域における実態調査』、2007年3月。
- ・「近代仏教」とは何か—近代仏教研究の視点から(一)—」『浄土学』第43号、2006年6月。
- ・「日本近代仏教教団論への試み—明治期・知恩院を事例として—」『大正大学大学院論集』第31号、2006年3月

【研究紹介】

専門は宗教史学。広く言えば、東アジアにおける近代化と宗教という研究テーマに関心を持ち、研究を行っている。博士論文のテーマは近代中国仏教の形成とそれに対する近代日本仏教の影響である。その他、今は近代中国国家（主に国民党国家）における戦死者祭祀の調査も行っている。

【2007年度以前の主な研究業績】

- ・修士論文（2005年）：「近代中国における日中仏教交流—民国時代の密教復興からの一考察」

【研究紹介】

専門は宗教社会学。日系宗教の海外布教に関心があり、特にハワイにおける日系宗教の展開と日系移民とのかわりについて、ナショナリズムやエスニシティの観点からこれまで調査・研究を進めてきた。今後は、ハワイ・北米地域と東アジア地域の状況の比較研究をはじめとして、近現代日本における日系宗教の海外布教を包括的に研究していきたいと考えている。また、インターネットやマスメディアに流通している宗教情報など、現代社会における新しいタイプの宗教的な諸現象の実態についても調査を進めていく計画である。

本プロジェクトでは、科学研究費補助金「大学における宗教文化教育の実質化を図るシステム構築」の業務を分担している。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・ロバート・G. リー『オリエンタルズ——大衆文化のなかのアジア系アメリカ人』（貴堂嘉之・小倉恵実・高橋典史・伊佐由貴共訳、岩波書店、2007年）
- ・「世代」（移民研究会編『日本の移民研究 動向と文献目録II 1992年10月—2005年9月』明石書店、2008年）

【講演・シンポジウム・研究会】

- ・「ハワイ日系宗教の日系人信者に見られる宗教的アイデンティティの変遷—天理教の教会継承を事例に—」日本宗教学会第66回学術大会、立正大学、2007年9月16日

【2007年度以前の主な研究業績】

- ・「排日期ハワイ日系社会におけるアメリカ化と宗教——日系人宗教指導者の言説に注目して——」『一橋論叢』第135巻第2号、2006年
- ・「第二次世界大戦後のハワイ日系仏教のアメリカ化とエスニック化」『一橋研究』第31巻第3号、2006年

【研究紹介】

専門は宗教社会学、社会調査論。特に社会の影響による人間の価値観や態度の変容について、その要因やプロセスに着目し研究を行なっている。具体的には、次のようなテーマに取り組んでいる。

- (1) 宗教集団における信仰や信念の獲得 / 受容プロセスの研究
- (2) 社会集団における病観の獲得 / 受容プロセスの研究
- (3) 大学生の学習意欲と学習態度の形成プロセスの研究
- (4) (3) の研究を行なうためのコンピュータシステムとウェブアプリケーションの開発

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・「神道・日本文化に関するオンライン学術情報発信のシステム構築」『神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成 研究報告Ⅲ』文部科学省 21世紀 COE プログラム（國學院大學）（黒崎浩行、江島尚俊、藤井弘章、大澤広嗣との共著）。
- ・「ノンフィクション作品からみた社会的リアリティー追体験から想像力へ」、張江洋直、大谷栄一編『ソシオロジカル・スタディーズ—現代日本社会を分析する』世界思想社、2007年12月。

【2007年度以前の主な研究業績】

【単行本】

- ・『ライフヒストリーの宗教社会学—紡ぎだされる人生』ハーベスト社、2006年6月（川又俊則、寺田喜朗との共編著）。

【論文】

- ・「社会調査における〈信憑構造〉とその揺らぎ」『年報 社会科学基礎論研究』第4号、2005年6月。
- ・「宗教的世界への「転向」論—「闘争」から「病気治し」への個人史的意味付け」『大学院年報』第22号、2005年3月。

【研究紹介】

専門は宗教社会学。(1)最近の研究テーマは「日本における宗教間対話」。日本の主要な宗教団体による宗教間対話についてのデータ集集・分析。2009年 Springer 社出版予定の図書のなかで一章を書くため。(2)2004年に始めた日本における宗教教育と道徳教育についても研究継続。目的は、公教育に宗教教育を導入する可能性を検討。その際、日本国憲法や教育基本法の改正、宗教・道徳教育の歴史、日本人の宗教・道徳観も分析。2007年に京都の私立中学・高校で宗教教育について調査、京都市教育委員会で、インタビュー、資料入手。文京区の公立の初・中等学校で道徳教育についてフィールドリサーチ。文京区教育委員会主催の講演会で議論。現在は成城学園、インターナショナルスクールで調査中。2006年から富坂キリスト教センター宗教教育研究会参加。成果は来年出版予定。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・“Religious Education in Contemporary Japan”, in *International Handbook of the Religious, Moral and Spiritual Dimensions of Education*, edited by M. de Souza et al (Dordrecht, The Netherlands: Springer Academic Publishers), 2007, pp. 1039-1053.

【学会・講演・シンポジウム・研究会】

- (1) “Objectives of Moral Education in Japan”, Monash University Japanese Studies Centre, Melbourne, 7 September 2007.
- (2) “Moral and Religious Education in Japan”, International Society for the Sociology of Religion, Leipzig, 25 July 2007.
- (3) “Moral and Religious Education in Japan”, Japan Foundation Fellows’ Seminar, Tokyo, 12 July, 2007.
- (4) 「アイデンティティ、剥奪と宗教への関わり」、富坂キリスト教センターの研究会、2007年3月6日。

【2007年度以前の主な研究業績】

- “Religious Education in Japan: What Are the Problems?”, *The Japan Mission Journal*, Vol. 59, No.3, 2005, pp.157-166.
- “Secrecy and Kakure Kirishitan”, *Bulletin of Portuguese/Japanese Studies*, Vol. 7, 2003, pp. 93-113.
- 「隠れキリシタンと経済的・社会的剥奪」、脇本平也、田丸徳善編『アジアの宗教と精神文化』、新曜社、1997年、pp. 99-121
- 博士論文、“Social Stratification and Religious Affiliation in Japan”, (Melbourne: Monash University), 1999.

【研究紹介】

現在の研究は、“計算機シミュレーションを用いた結晶成長理論の研究”、“計算機によるゲーム理論の研究”、“ICT活用によるFD(Faculty Development)/SD(Staff Development)促進の研究”、“学習管理システムやe-learningを活用した教育並びに専門家育成”など多岐にわたるが、いずれの研究も“研究手段として計算機を活用する”という点で一致している。

本プロジェクトでは、Webページの制作を分担している。

【2007年度の研究業績】

【論文】

- ・“Growth of a binary ideal solid solution crystal studied by Monte Carlo simulation” Kiiko Matsumoto, Toshiharu Irisawa, Masao Kitamura, Etsuro Yokoyama, *Journal of Crystal Growth* 310 (2008) 646-654
- ・“非分割財の交換市場モデルにおける von Neumann-Morgenstern 集合の存在性について” 和光純, 入澤寿美, 松本喜以子 学習院大学計算機センター 年報 Vol.28 2007 P48-63

【国際会議発表】

- ・“Effective distribution coefficient of binary solution crystal by Kossel model” Kiiko Matsumoto*, Toshiharu Irisawa, Masao Kitamura, The 15th International Conference on Crystal Growth/The 13th International Conference on Vapor Growth and Epitaxy

【2007年度以前の主な研究業績】

- ・“Effective distribution coefficients of an ideal solid solution crystal : Monte Carlo simulation” Kiiko Matsumoto, Toshiharu Irisawa, Masao Kitamura, Etsuro Yokoyama, Yoshinao Kumagai, Akinori Koukitsu, *Journal of Crystal Growth* 276 (2005) 635-642
- ・“Two-dimensional nucleation in ideal solid solution crystalline surface” Kiiko Matsumoto and Toshiharu Irisawa *Proceedings of the 5th Symposium on Atomic-scale Surface and Interface Dynamics*, March 1-2, 2001, Tokyo P413-416

【研究紹介】

専門は宗教学で、とくに近現代の日本における新宗教が主な研究対象である。

新宗教信者の信仰生活においては超自然的な力に頼む側面と、教えに沿った自己規律的な側面が見られるが、この二つの側面のかかわり方の研究を行ってきた。その他、日本宗教史における新宗教の現れ方や教団組織の在り方などにも関心がある。

また、近年は、信仰を持っている人との比較の視点から、一般的な日本人の持つ宗教意識に関心を持ち調査等を行なっている。

国際社会、そしてグローバル化が進むなかで、宗教に関する一般的な素養を身に着けることの重要性を痛感し、宗教文化教育における教材開発等にも関わっている。

本プロジェクトでは国際研究フォーラムの開催準備等に協力している。

【2007年度以前の主な研究業績】

- ・“Sinnyo-en in Society”, 2006, edited by Ruben L.F. Habito & Keishin Inaba, *The Practice of Altruism: Caring and Religion in Global Perspective*, Cambridge Scholars Press, pp.72-77.
- ・『信頼社会のゆくえ—価値観調査に見る日本人の自画像—』ハーベスト社、2007年(ロバート・キサラ、山田真茂留との共編著)
- ・『日本的な宗教意識の諸相』2004年3月ロバート・キサラ編『科学研究費補助金・基盤研究(B)(2)「価値体系の国際比較(アジア価値観調査)」(2001～2003年度)研究成果報告書』(pp.73-89)